

1. 企画テーマ名称

(1) 企画テーマ名称(主題)

「中学生のための情報・理科・国際理解・環境教育のためのカリキュラム開発」

(2) 副題

保護者・地域社会・国際社会とともに

2. 企画のねらい

目的・ねらいの視点と目標

本企画には、2つの視点があります。

1つは、中学生に、きちんとしたメディアリテラシー教育を施し、その上で、地域社会へ目を向けた環境学習を行います。また、国際理解教育を意識して、ネパールの中学校と環境学習をテーマにした共同学習も考えました。

2つ目の視点は、本校の中学1・2年生全員にかつ、授業の枠組みの中で行うための無理のないカリキュラムを作るところです。全生徒をすべて、授業の枠組み中で行うことはなかなか難しいです。どのようにしたら容易なカリキュラムが組むことができるか、いろいろと試行錯誤を行ってみます。

また、その評価方法については、生徒同士・教員はもとより、保護者あるいは、地域の方々にもいろいろと意見を言うていただくために、授業をリアルサーバーに部分公開します。いろいろな意見を吸収するなかで、子供達が成長できるような評価方法をいろいろと考えていきます。

これらの試みから、ある程度の成果ができれば、「地域社会への理解教育」「環境教育」「国際理解教育」の授業レベルでの実践も可能になるように思われます。また、さらに、「地域社会への貢献」とか「国際社会への貢献」といったカリキュラムも作成可能のように思われます。

背景・企画実践の必要性・新規性・汎用性・波及効果

いろいろな実践報告書を読むと、一部の生徒と限られた時間内で、生徒の「生きる力」を養う試みは多数、報告されています。しかし、全生徒がしかも授業の枠組みの中で、カリキュラムとして、行っている取り組みはほとんどありません。しかも、全生徒に電子メールアドレスを与え、パスワード教育・モラル教育も充分に行う中で、社会に直接目を向けて実践を行うカリキュラムを作るという試みはなかなか難しいです。今後、このような試みは、総合的な学習の時間の定着とともに確実に必要になってきます。

授業内容とか評価方法について外部の方に意見を言うていただくつもりです。たとえば、評価方法という言葉は、子供同士あるいは先生の評価はよく聞きますが、保護者あるいは、地域の方々からその評価方法について意見をお伺いする事はほとんどありません。学校の開放という点でもぜひとも必要になってきます。なぜならば、これから、インターネット

という道具が「学校の壁」をどんどん取り除いていくからです。

3. 企画の概要

1) 対象

対象となる学年 中学生1年生(295名)と中学生2年生(270名)

対象となる教科 「技術家庭科」の情報基礎分野と「理科(環境教育分野)」

2) 実施内容

実施スケジュール

2月～3月

全生徒の電子メールアドレス準備などを行います。

4月～6月

パスワード教育・電子メール操作など基本技術を教えます。

7月

リアルサーバーの立ち上げます。

8月

日本側の教員がネパールを訪問して、お互いの環境教育について意見交換を行います。

9月～12月

Web 検索・ページ作成などの基本技術を教えます。生徒達が、地域のいろいろな環境について調べたり、自分達の Web ページを作成したりします。

9月

文化際行事にもからめて、ネパールの生徒・先生をご招待します。ネパールの環境について、来日していただいた先生に授業をしていただき、生徒同士の交流も行います。

10月～12月

電子メール・インターネット電話による生徒同士の意見交換を断続的に行います。2月末にまとめる日ネ共同作成によるレポート準備を行います。同時に、保護者・地域の方々に授業内容・評価方法について、いろいろなご意見を聞き、授業改革を行います。

1月～2月

生徒にレポート作成を行わせて、最後に発表をさせます。

授業方法・評価方法についてのアンケート調査

本プロジェクトでは、保護者・地域の方々から、「授業方法及び評価方法」についてアンケート調査を行う予定でいます。ある程度事前に、授業方法・評価方法についての説明を電子メールで行います。実際の授業は、リアルサーバーで公開します。保護者あるいは地域の方々には、子供達の理解度・満足度・学習達成度を、家庭あるいはシニア交流会などで、子供とご議論して調査していただき、アンケートを電子メールで返していただく方法を考えています。それを次の授業に随時反映させていく計画でいます。

5. 実施体制

1) 実施体制

サポート体制

学校長 – 情報管理部 – メディア・コミュニケーション・センター (MCC)
援助 技術支援

各教科の協調

メディア・コミュニケーション・センター --協力-- 理科・技術家庭科
データの作成・蓄積 カリキュラム開発

外部サポート体制

メディア・コミュニケーション・センター --協力-- 東海スクールネット研究会
技術支援

2) 実施スケジュール

2月～3月

全生徒の電子メールアドレス準備などを行う。(MCC 担当)

4月～6月

パスワード教育・電子メール操作など基本技術を教える。(教科担当)

7月

リアルサーバーの立ち上げる (MCC 担当 東海スクールネット研究会支援)

8月

教員がネパールを訪問して、お互いの環境教育について意見交換を行う。(MCC 担当及び東海スクールネット研究会会員も参加する。)

9月～12月

Web 検索・ページ作成などの基本技術を教える。(教科担当) 地域のいろいろな環境を調べさせて Web ページを作成させる。(生徒の活動)

9月

文化際行事をからめて、ネパールの生徒・先生をご招待する。ネパールの環境について、来日していただいた先生に授業をしていただき、生徒同士の交流を行う。(学校行事 東海スクールネット研究会支援で、教科・MCC 担当)

10月～12月

電子メール・インターネット電話による生徒同士の意見交換を断続的に行い、2月末にまとめる日ネ共同作成によるレポート準備を行う。同時に、保護者ともいろいろと意見交換をしつつ、授業改革を行う。(教科担当)

1月～2月

生徒にレポート作成を行わせて、最後に発表をさせる。(教科担当)

3) 実施環境

コンピュータ・ネットワーク・周辺機器・ソフトウェア等の特徴的なシステム環境

特に、特徴的なシステムは無い。しいて言えば、中学1・2年生全員に電子メールが発行できるメディア・コミュニケーション・センターという(いわゆる)コンピュータ教室があります。